

佐保台小学校 田植え体験学習・報告

松本 武彦

さる6月13日、夏を思わせるような青空のもと、今年で12回目となる佐保台小学校5年生の児童による田植え実習が行われました。参加したのは、男子児童13名と女子児童7名の計20名で、約200㎡の水田に、古代米の一種という、モチ米の「さよむらさき」を植えました。

午前10時20分頃、白い体操服に青色の半ズボン、青色の帽子姿の子どもたちが、先生に引率されてベースキャンプへの坂道を下ってきました。「おはようございます」。出迎えた「奈良・人と自然の会」の会員とハイタッチをしながら元気よくあいさつを交わし、水田に向かいました。

畦で靴を履き替えるなど準備を整えた子どもたちは、田植えの雰囲気盛り上げようと、会員が用意した赤いタスキを体操服の上に掛けてもらい、鈴木会長から、

- ・この田植えは、総合学習の一部であり、里山をきれいにする活動の一環として行っていること。
- ・自然は、「子孫から借りているもの」なので、きれいなままで子孫に返さなければならないこと。
- ・真剣な気持ちで田植えをすること。

などの諸注意を受けた後、一斉に植え始めました。



「一株には3本程度の苗が適当」との説明も聞いていた子どもたちは、泥に足をとられそうになりなが

ら、真剣な面持ちで、水田に散りばめられた苗の固まりを指先で小分けしながら、田に引かれたひもの目印に従って植え付け、1時間ほどで全員が完了しました。

この中では、うまく植えられず困っていた仲間を、誰に促されることもなく、先に植え終わった者が手助けに入るという微笑ましい光景も見られました。共同作業を通して学ぶことの多い田植えの場での、温かく貴重なワンシーンでした。

折から、一匹のトンボが飛来して色を添え、しばらく上空を旋回してから水面近くで幾つかの半円を描きながら、やがて周りの景色に溶け込んでいきました。幼少のころがよみがえる穏やかな一瞬です。植え終わった子どもたちからは、

- ・「田植えはおじいちゃんの家でしたことがあります、上手に出来たと思う。」
- ・「田んぼの中の虫などを見られてよかった。」
- ・「最後には泥も気持ちよく感じた。」

などの声が聞かれました。

この後、今後の観察に備え、それぞれの分担区域に名札を立て、豊かな実りを祈願して、全員で田の神に献花をしました。「初めてにしては上出来」と



の講評があり、最後に、会員の吉村さつきさんが懐かしい童謡「田植え」を披露してすべてを締めくくりました。

そろた出そろた 早苗がそろた

植えよう植えましょ みんなのために

米は宝だ 宝の草を

植えりゃこがねの花が咲く

思い出された方も多いのではないのでしょうか。

追記：今年から水田北隣の元水田で、陸稲栽培が試みられており、今回植えた水稲との比較が楽しみです。